胎内市立中条中学校 https://tainai-nakajo-jhs.edumap.jp/

令和6年 12 月 23 日 第 14 号

254-43-2761

教育目標「考える」

新しい学校のリーダーズ



生徒会長さん (写真左より)副会長さん、さん書記長さん

校長 森谷 優子

12月16日(月)、生徒会役員選挙で選出された令和7年度の生徒会三役4名に任命書を手渡しました。選挙は定員に対し2倍の立候補者がありました。11月28日(木)に行われた立会演説会は、どの候補者の演説もすばらしく、心を動かされました。中条中学校にこのようなリーダーがたくさんいることを頼もしく、本当に嬉しく思いました。

8人の候補者の演説を聞きながら、どの候補者からも「この学校をよくしたい、さらに安全で秩序のある学校、より

協調性のある学校にしたい」という思いが伝わってきました。「一部の人でなく全員が気持ちよく居 心地のよい学校」「一人一人が平等で一人一人が主役になれる学校」「みんなで考え、思いを伝え合う 学校」など、それぞれの候補者が掲げたスローガンにそれがよく表れています。ほとんどの候補者 が中条中の改善すべき課題として一番にあげていたのが「ルールを守ること」「規範意識の向上」でした。この課題の解決のために、なぜルールが守れないのかを全員が考えること、人と人とのかかわりを増やすこと、自分のことだけでなく他の人のことも考えること、当たり前の意識をもつこと、学校行事で発揮されるパワーを目常の学校生活に生かすこと、生活にメリハリをつけること、生を見て行動することなど、実に多くの提案がありました。提案の中には、かかわりは異学年交流がよいとか、昼の放送で学級日誌の記事を読む、校歌を流すなど具体的な提案もありました。聞いていて、中学生の発想の柔軟性を感じました。背景に「私たちの学校を、私たちの意見でもっとよくしたい、成長したい」という強い願いも感じました。

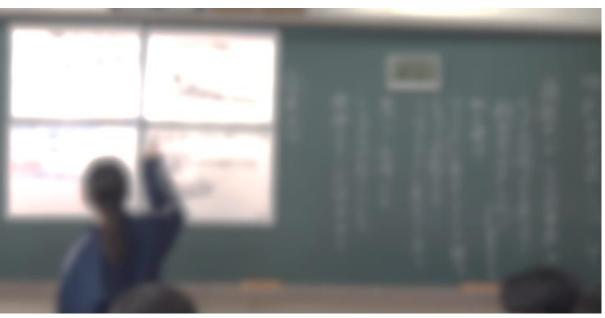
中条中学校の生徒は、1年生から3年生まで全員が「中条中学校社」のメンバーです。中条中学校社の経営理念は「わたしたちには、社会を変え、世界を変える力がある」ですが、候補者の意気込みから、私たち一人一人が、総合的な学習にとどまらず、もっと自分たちの足元を見直していくことが大切だと考えました。

さて、年の瀬も押し迫ってきました。来年はどんな年にしたいですか。**人間というものは、誰もが今の自分よりもよくなりたいと願っているものです**。もっとよくなりたいと願う時、ついてくるのが不安です。でもわたしは思うのです。不安なのはよくなりたいから、よくなろうとする途中にいるからなのです。つまり、**不安は前進の証**、一人一人がそれぞれの歩みで前進していけるといいですね。みなさまどうぞ良い年をお迎えください。

校則の見直し

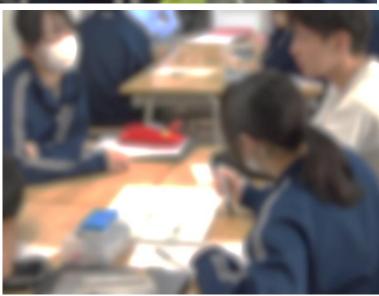
早い頃、校則見直しについて学級討議を行いました。テーマは「昼休みの他教室への出入り」についてです。まず、問題点をあげ、改善点について考えました。校則を守ること、適正な校則なのかを考える時、自分は関係ない…では意味がありません。一人一人が自分事として捉えて考え

る大(しらがしはし)りでこ切さ合数経たどよ振のすとでていかち現ううり時、がす。話か月ま状でふ返期が













道徳授業の公開

11月18日(月) p4c(子どものための哲学対話)という手法を使い、1-1の大矢亮先生が、道徳の授業をされました。二市北蒲の中学校の先生もたくさん参観に来られました。

話し合うテーマは、「優先座席があるのは平等か不平等か」「年齢の違いでお年玉の額が違うことは公平か」でした。班ごとにテーマを選んで対話していました。

<p4c(ピーフォーシー)のルール>

話したい時は 手をあげて ボールをもらう	話したくない時 はパスできる	じつくり ゆっくり 考えよう
ボールを持って いる人が次に話 す人を決める	● 答えが分からな くても大丈夫	セーフティ (安心・安全)を 大切に!
まだあまり話して いない人にボー ルをまわそう	質問し合って掘り下げよう	人の話は否定せず、最後まで聴こう



この毛糸でできたボールをもった人だけが話すことができます。

球技大会 / カルタ大会



12 月は、応援団による球技大会、図書委員会によるカルタ大会が行われました。

どちらもクラス対抗で全校生徒が楽しそうにソフトバレー、カルタに興じていました。周りで見ているたくさんの応援、観客の生徒も楽しんでおり、いい時間を共有させていただきました。





